

知財実務の革新：島津製作所発「Genzo AI」が切り拓くプロフィットセンターへの転換

日本の製造業において「防衛的コストセンター」だった知財部門を、AI活用により「収益を生むプロフィットセンター」へと変革する試みです。
島津製作所の実務知見と生成AIを融合させ、高度な専門業務の自動化とハルシネーションの徹底抑制を実現しています。

知財戦略のパラダイムシフト：守りから攻めへ



コストセンター
(従来型)

知財の位置づけ: 防衛的資産 (守り)
主な活動: 出願・侵害予防
ナレッジ管理: 個人のスキルに依存



コストセンターから
プロフィットセンターへ

知財を法的保護の対象から「新規事業創出の柱」へと再定義し、外部との協業を加速します。



プロフィットセンター
(Genzo AI)

知財の位置づけ: 戦略的事業資産 (攻め)
主な活動: IPランドスケープ・発明発掘
ナレッジ管理: AIによる形式知化・全社共有



熟練者の「暗黙知」を
AIで形式知化

ペテランの思考プロセスをプロンプト化し、属人化していた高度な調査業務を誰でも実行可能にします。

信頼性を支える「3つの防壁」アーキテクチャ



マイクロ・プロンプトによる精密制御

業務を極小単位のステップに分解して指示することで、AIの推論を人間が管理可能な状態にします。

クローズド環境でのハルシネーション制圧

信頼性の高い特定公報のみをコンテキストとし、AIの勝手な推測を系統的に禁止します。

業務特性に応じた動的モデル選定

タスク（要約、論理推論、専門用語など）に合わせて最適なAIモデルを自動で使い分けます。